



3. ろうきんSDGs行動指針に基づく労金連の取組み

ろうきんSDGs行動指針に基づく労金連の取組み 26

ろうきん森の学校 28

ろうきんSDGs行動指針に基づく労金連の取組み

労金連のESG投融資の取組み

持続可能な社会の実現に向けた経営の推進

労金連は、「ろうきんの理念」にある“人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与すること”を実現するため、経営方針に「社会的責任（CSR）を重視した誠実な経営」を掲げています。この経営方針を実践し、SDGsを達成していくため、持続可能な社会の実現をめざす金融の担い手として、勤労者を取り巻く社会的課題の解決に繋がる資金循環をつくりだしていく責任があると考え、ESG投融資に取り組んでいます。

ESG投融資の取組み

労金連は、ESG投融資を一層進め、内容の充実を図る観点から、2010年4月に制定した「労金連のSRI（社会的責任投資）原則」を見直し、2020年4月に「労金連のESG投融資原則」を制定しました。持続可能な社会をめざす金融の担い手として、投融資の判断にあたっては、財務分析に加えてESG（E：環境、S：社会、G：企業統治）の課題を考慮した取組みを実践しています。

責任投資原則（PRI）への署名

労金連は、2017年9月に〈ろうきん〉業態を代表し、国内預金取扱金融機関（信託銀行を除く）で初めて、国連が提唱する責任投資原則（PRI:Principles for Responsible Investment）に署名しています。

PRIとは、投資行動にあたって、投資先企業のESG課題への取組みに配慮することを宣言したものです。2023年3月末日現在、世界で5,300を超える機関投資家や運用会社等が賛同署名しています。

労金連は、PRIによる2021年の年次評価（2020年の活動を対象とする評価）において、下表のとおり、評価対象となる4項目すべてについて、中央値を上回る「4つ星」〈注〉を獲得しました。〈注〉評価は★「1つ星」～★★★★★「5つ星」の5段階で、数字が大きいほど高評価となります。

PRI年次報告書2021評価結果				ス コ ア		評 価 結 果
				中 央 値	本 会	
投資ポリシーとスチュワードシップポリシー (Investment&Stewardship Policy:ISP)				60	68	★★★★☆
自家運用 債券（F）	ソブリン債等	Direct-Fixed income-SSA		50	68	★★★★☆
	社債	Direct-Fixed income-Corporate		62	69	★★★★☆
	証券化商品	Direct-Fixed income-Securitized		55	71	★★★★☆

PRIの6つの原則

1. 私たちは、投資分析と意思決定のプロセスにESGの課題を組み込みます
2. 私たちは、活動的な所有者となり所有方針と所有習慣にESGの課題を組み入れます
3. 私たちは、投資対象の主体に対してESGの課題について適切な開示を求めます
4. 私たちは、資産運用業界において本原則が受け入れられ実行に移されるように働きかけを行います
5. 私たちは、本原則を実行する際の効果を高めるために協働します
6. 私たちは、本原則の実行に関する活動状況や進捗状況に関して報告します

Signatory of:



ESG投融資推進委員会

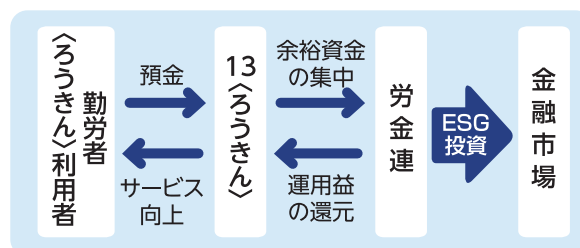
労金連は、「ろうきんSDGs行動指針」および「労金連のESG投融資原則」に基づき、ESG課題にポジティブな企業へ積極的に投融資するため、「ESG投融資推進委員会」を設置しています。

ポジティブスクリーニングの審査では、ESG課題の中でも「S：社会（労働環境）」に重点を置いた評価を行い、投資の判断材料としています。

開催頻度	原則月1回
委員	役員（執行役員を含む）、関係部長
審議事項等	1. ESG投融資推進に係る施策 2. ポジティブスクリーニングの審査 (1) 個別株・環境債・社会貢献債・ESGファンド等への投資に関すること (2) ソーシャルビジネスへの投融資に関すること 3. ネガティブスクリーニングの審査 4. 株主議決権行使に関すること 等

ESG投資の実践

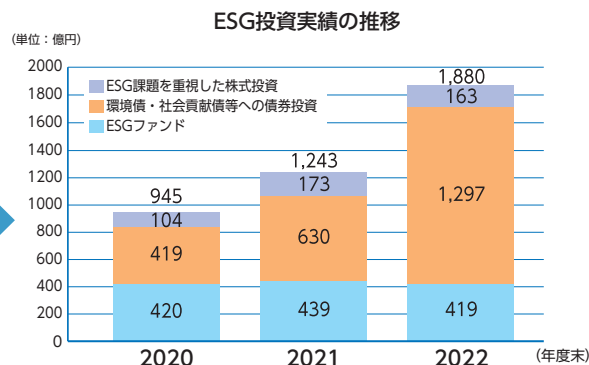
〈ろうきん〉は、会員や間接構成員の皆さまから預金としてお預かりした資金を、全国のはたらく仲間の生活支援として「住宅ローン」「教育ローン」「自動車ローン」といった貸出金として役立てています。労金連は、貸出金以外の運用可能な余裕資金を集中し、効率的に運用する中で、投資先企業のESG課題への取組みに配慮したESG投資を実践しています。



ESG投資の実績

2022年度末のESG投資の実績は下表のとおりです。

ファンド・債券・株式	投資残高	
	2021年度末	2022年度末
ESGファンドへの投資	439億円	419億円
環境債・社会貢献債等への債券投資	630億円	1,297億円
うち、環境債(グリーンボンド)	(273億円)	(476億円)
うち、社会貢献債(ソーシャルボンド)	(181億円)	(240億円)
うち、サステナビリティボンド等	(175億円)	(580億円)
ESG課題を重視した株式投資	173億円	163億円
合 計	1,243億円	1,880億円



持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則(21世紀金融行動原則)



労金連は、地球の未来を憂い、持続可能な社会の形成のために必要な責任と役割を果たしたいと考える金融機関の行動指針として策定された「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則(21世紀金融行動原則)」に署名しています。この署名は、21世紀金融行動原則の趣旨が、「ろうきんの理念」および労金連の経営方針に掲げる「社会的責任(CSR)を重視した経営」に通底するものであること、ガイドラインの取組事例と本会の実践内容が一致していることなどから2012年2月に行ったものです。

21世紀金融行動原則は、日本における環境金融の裾野の拡大と質の向上を目的としつつ、持続可能な社会の形成のために必要な責任と役割を果たす取組みです。

労金連は、持続可能な社会の形成に向けた金融機関の責任と役割を認識し、この21世紀金融行動原則の趣旨に基づく取組みを推進していきます。

働きやすい職場をめざして

労働金庫にふさわしい「組織風土」の確立に向けた取り組み

「労働金庫にふさわしい『組織風土』の確立に向けた基本方針」に基づき、労金マインド醸成を目的として、若手職員を対象とした一般社団法人日本協同組合連携機構主催の協同組合学習交流会および労金協会主催の労働金庫で働くことの意義に関する中央機関職員向け研修に職員を派遣しました。また、働きやすい職場づくりと経営の健全な発展に向けた取組みとして、風通しの良い職場づくり、多様な考え方を尊重し能力発揮ができる職場づくり、ハラスメントの根絶、コンプライアンス経営の実践など具体的なテーマを掲げ、全役職員がやりがいをもって心身ともに健康で安心して働き続けられる職場の実現をめざしています。

次世代認定マーク(愛称:くるみん)の認定、トモニンの取得

労金連は、仕事と子育ての両立を図るための制度・環境の整備、全職員がワークライフバランスを保ってはたらくことができる環境の整備に努めており、2016年の認定に続き、2020年2月7日付で東京労働局長より、「一般事業主行動計画」が「次世代育成支援対策推進法」第13条に基づく基準に適合するものであるとして「子育てサポート企業」の認定を受け、認定マーク(愛称:くるみん)を取得しています。

育児・介護休業法改正に基づく出生時育児休業制度(通称:産後パパ育休)の創設にあわせてワークライフバランスガイドブックを改訂し、職場周知した結果、2022年度における男性の育児休業取得率が向上しました。

なお、2015年9月4日付で「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」が公布され、女性の活躍推進に向けた行動計画の策定が義務づけられており、両行動計画は取組み内容が重複する部分があることから、労金連では一体の行動計画を策定しております。

また、介護を容易にするための勤務時間短縮や時間外労働の制限・免除など、仕事と介護を両立しやすい職場環境整備に努めていることから、2020年2月に厚生労働省委託事業「両立支援のひろば」の一般事業主行動計画公表サイトに仕事と介護の両立に関する取組みを公表し、これにより「トモニン」を使用しています。

総労働時間削減に向けた取組み

職員のワークライフバランスの実現に向けて、ノー残業デー(部やセクション単位:年間48回、職場一斉:年2回)、年休取得強化月間(年3回)、連続休暇の取得促進などの取組みを事業体と労働組合が共同して行っています。

インターンシップの受入れ

労金連は、勤労者のための福祉金融機関の社会的役割として、学生の自己理解と職業理解を促進させるインターンシップの受入れに取り組んでいます。



ろうきん森の学校



この事業は
「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」
が推奨する事業として認定を受けています。

■「ろうきん森の学校」は「森づくり」から「人づくり」、「地域づくり」につながる活動です

労金連は、2005年に創立50周年を記念して、「ろうきん森の学校」を開校しました。最初の10年を「第Ⅰ期」、2015年からの10年を「第Ⅱ期」として、継続して取り組んでいます。

「会員が行う経済・福祉・環境および文化にかかわる活動を促進し、人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与する」を理念に掲げる〈ろうきん〉と、「人・自然・地域の共生する暮らしの実践を通じて感謝の気持ちと誇りを持って生きている社会を目指す」を理念に掲げるNPO法人ホールアース自然学校が共感・協働して、全国5地区のNPOと共に活動を展開しています。

これまでに、「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」が推奨する連携事業に認定されたほか、第5回いきものにぎわい企業活動コンテストにおいて「公益社団法人国土緑化推進機構理事長賞」を受賞するなど、各方面から、長期にわたる活動に対する評価をいただいています。

3つのキーワードと6項目の基本方針に基づく各地区の具体的な活動は、SDGsの「目標15.陸の豊かさを守ろう」はもちろん、「目標3.すべての人に健康と福祉を」、「目標4.質の高い教育をみんなに」、「目標13.気候変動に具体的な対策を」、「目標17.パートナーシップで目標を達成しよう」など複数の目標の連鎖的な達成につながっています。

活動の3つの柱



① 森を育む
植樹、間伐・下刈り等の
森林整備活動



② 人を育む
森づくりや環境教育
リーダーの育成



③ 森で遊ぶ
里山を活用した自然体験・
環境教育プログラムの
開発と実施

【キーワード】

- 厳しい環境の中で働く勤労者等に精神的な安らぎを与える「緑」
- 身体を動かす喜びと「健康の維持」
- 「地球環境保全」への共感と参画

【基本方針】

- 地球温暖化防止に対して足元から取り組みます。
- 地域の多様な自然を取り戻します。
- 里山を活かした暮らしの提案・発信をします。
- 森づくりから始める人づくりを行います。
- 地域全体で活動に取り組みます。
- 自律した運営をめざします。

SNS (note) を活用した情報発信により、各地区NPOの活動や森の学校に関わる人たちの想いを記事や写真で紹介しています。

\noteで発信中！/



2022年度活動紹介

各地区の森の学校は、①森を育む、②人を育む、③森で遊ぶを3つの柱として活動を展開しています。
2022年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を講じて、各地区とともに活動を実施した結果、5地区のうち、3地区で参加者数が2021年度より増加しました。

3つの柱～①森を育む、②人を育む、③森で遊ぶ～に基づく各地区の取り組み

～森を育む～植樹祭【福島地区】

福島地区の活動拠点となっている湯ノ岳山荘の東側の荒地地斜面を整備し、薪炭林の復活を願い、市民が参加して「植樹祭」が行われました。かつては、人の生活の場であった里山。今回植樹した「クヌギ」が10年後、薪やシイタケのホダ木として再利用され、豊かな里山のリサイクルが蘇ってほしいと願っています。



～森を育む～市民の森の継続的な整備活動【新潟地区】

くわどり市民の森エリアでは、下草刈りや枝払いなどを継続的に実施しています。その除間伐材を利用してナメコやシイタケを栽培するとともに、天然きのこ（ナラタケ）の繁殖地の環境整備を行っています。また、数年前から整備しているササ林は、春に良質なネマガリタケが採取できるようになりました。今後は除間伐などの手入れを進めながら、このような活動で得られる山菜類については、イベントやカフェで提供して活用したいと思います。



～人を育む～子どもキャンプ【富士山地区】

ホールアースの原点ともいえるキャンプ。自分たちで寝泊まりするテントは自分たちで建てます。他にも自分たちで火を起し、その火を使って自分たちのご飯を作ります。時には富士山麓に無数にある洞窟へヘッドライトで入ったり、富士山の湧水が源水の芝川で思いっきり遊んだりもします。敷地内で飼っている動物たちとのふれあいを通して子ども達に命の尊さや思いやりの気持ちを育んでほしいと思いながら活動しています。



～人を育む～SDG s ユース人材育成【広島地区】

広島地区は、これまで大学生の自然体験活動リーダー養成に力を注いできましたが、SDG s が時代の隆盛となり、社会課題解決に向けた取り組みが強く求められるようになりました。森の学校の活動と地域課題の解決が連動するような俯瞰した取り組みが必要との認識から、2030年に活躍できる人材養成の必要を感じ、2022年度は試行的に養成講座を実施しました。



～森で遊ぶ～森から色をいただく草木染講座【岐阜地区】

季節ごとに森の植物を採取して、草木染講座を開催しました。草木染めというと茶色をイメージする方も多いと思いますが、道端の草から鮮やかな黄色が出たり、開花前の桜の枝からほんのりピンクが発色したり、媒染すると色に深みが出たり、自然の可能性を再発見できる講座となりました。



～森で遊ぶ～親子で楽しむもりっちクラブ【新潟地区】

親子で森の恵みに親しむ「もりっちクラブ」では、森遊びやものづくりなどをメインに毎月1回の活動を行いました。子ども達は池や森での生き物採集・観察に目を輝かせ、大人には散歩で出会った山菜やきのこなどを使ったアウトドアクッキングが大人気でした。今後は「大人のコーヒープレイクタイム」や「子ども探検隊」など、参加者の要望に応じた主体的な活動を取り入れていきたいと思っています。



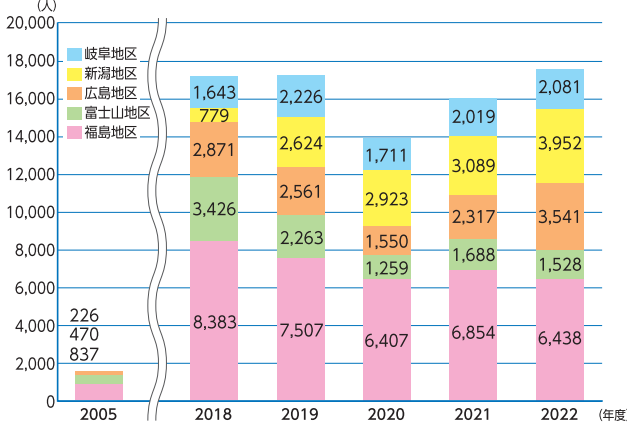
活動実績報告

■2022年度末までに25万人を超える方が参加

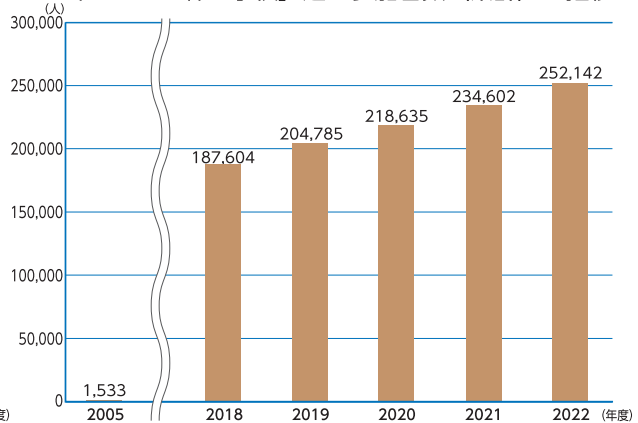
「ろうきん森の学校」は開校から18年目を迎えました。2022年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を講じて、各地区では、さまざまなプログラムを実施しました。延べ参加者数は、5地区合計で17,540人となり、コロナ禍前の2019年度の参加者数を上回り、開校から2022年度末までの累計参加者数は252,142人になりました。

今後も、「ろうきん森の学校」各地区NPOと連携し、新たな価値の創出に取り組めます。

「ろうきん森の学校」延べ参加者数（年度別）の推移



「ろうきん森の学校」延べ参加者数（累計）の推移



<5地区の紹介・お問い合わせ先>

新潟地区(新潟県上越市)

現地事務局 NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部

上越市西部中山間地にあり、活動拠点である「くわどり市民の森」からは、地元の集落から日本海まで一望できます。地域の魅力を活用したプログラムはもちろん、移住促進や地域資源の継承等、地域を盛り上げる活動に取り組んでいます。



福島地区(福島県いわき市)

現地事務局 NPO法人いわきの森に親しむ会

福島県南部に位置するいわき市にあり、森・川・海のつながりと循環を体験できるフィールドが多数あります。2022年度に自然学校を開校し、豊かな自然を最大限に活かした新たなプログラムを実施していきます。



岐阜地区(岐阜県美濃市)

現地事務局 NPO法人グリーンウッドワーク協会

長良川沿い、うだつの上がる街並みと和紙の里として知られる美濃市にあります。新たなスタッフも加入し、廃校を利用した新たな拠点の運営やプログラムのブラッシュアップに力を入れています。



富士山地区(静岡県富士宮市)

現地事務局 NPO法人ホールアース自然学校

富士山南西麓の富士宮市(柚野、田貫湖)で同時に展開しています。近年では生物多様性保全や健康経営等の社会課題の解決をめざし、里山の利活用と掛け合わせたプログラムの開発に取り組んでいます。



広島地区(広島県山県郡北広島町)

現地事務局 NPO法人ひろしま自然学校

広島市内から車で約1時間の北広島町に拠点があります。プログラム専用の施設が増設され、地域住民や子ども達と一緒に新たな地域教育の形を探っています。



全国事務局・富士山地区

NPO法人ホールアース自然学校

〒419-0305 静岡県富士宮市下柚野165

TEL:0544-66-0790 FAX:0544-67-0567

(全国事務局) <https://www.mori-gakko.net/>

(ホールアース自然学校) <https://www.wens.gr.jp/>

福島地区

NPO法人いわきの森に親しむ会

〒972-8326 福島県いわき市常磐藤原町湯ノ岳2湯ノ岳山荘内

TEL・FAX:0246-44-3273 <https://iwaki-mori.jimdo.com/>

新潟地区

NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部

〒949-1734 新潟県上越市大字増沢962-1

TEL:025-541-2602 FAX:025-512-1379 <https://kamiechigo.jp/>

岐阜地区

NPO法人グリーンウッドワーク協会

〒501-3701 岐阜県美濃市2973番地1

TEL:090-4793-9508 <https://www.greenwoodwork.jp/>

広島地区

NPO法人ひろしま自然学校

〒731-1221 広島県山県郡北広島町今吉田1197

TEL:080-4069-0786 <https://hs-gakko.wixsite.com/2005>